

# The Parks of Aomame

開催報告書

2025.9.26 Fri. - 11.24 Mon.

岡山芸術交流  
Okayama Art Summit

2025



青豆の  
公園

## 目次

<b>I 開催概要</b> .....	2
<b>II 展覧会</b> .....	11
展示会場 .....	12
A 旧内山下小学校 .....	13
B 岡山県天神山文化プラザ .....	16
C～E .....	19
C 岡山市立オリエント美術館 .....	20
D 岡山神社 .....	20
E 出石町空き地 .....	20
F～H .....	21
F 岡山県立図書館 .....	22
G 丸の内ハウス .....	22
H 旧写真イガラシ .....	22
I～L .....	23
I 城下地下広場 .....	24
J 岡山シンフォニービル .....	24
K 表町商店街（K1～K5） .....	25
L 岡山天満屋（L1～L2） .....	28
M～N .....	29
M 旧西川橋交番 .....	30
N 西川緑道公園 .....	30
O～Z .....	31
O 岡山市内各所 .....	32
Z その他 .....	33
<b>III 内覧会・レセプション・オープニング</b> .....	34
内覧会・レセプション .....	35
オープニング .....	36
<b>IV 運営</b> .....	37
<b>V 広報</b> .....	44
<b>VI グッズ・クラウドファンディング</b> .....	64
グッズ .....	65
クラウドファンディング .....	66
<b>VII プログラム・イベント</b> .....	67
パブリックプログラム .....	68
アーティストック・トランスレータープログラム .....	82
イベント .....	86
連携プログラム .....	89
<b>VIII 来場者の状況</b> .....	93
来場者の状況 .....	94
来場者アンケート調査 .....	95
<b>IX 効果</b> .....	100
経済波及効果 .....	101
評価 .....	102
<b>X 実行委員会</b> .....	103
組織 .....	104
収支状況 .....	105

○本報告書は2026年1月31日までの情報を掲載しています。  
○特に西暦の記載のない日付は2025年に実施されたものです。  
○端数処理を行っているため、表中の合計の値が一致しない場合があります。  
○文中の敬称は省略しています。

## 岡山芸術交流2025

2025年9月26日(金)から11月24日(月・休)までの52日間、岡山城・岡山後楽園周辺の主要19会場で、「The Parks of Aomame 青豆の公園」をタイトルとした国際現代美術展「岡山芸術交流2025」を開催し、会期中、延べ約42万5千人が来場した。

### 推進体制

岡山県・岡山市(自治体)と、民間の公益財団法人の3者が中心となり、経済団体、教育団体、報道、交通事業者、文化団体等の官民で組織する実行委員会により事業を推進した。

### タイトル・参加ゲスト・作品

- タイトル・参加ゲスト・作品選定等のキュレーションを担うアーティストック・ディレクターに、現代のフランス美術を代表するフィリップ・パレーノ氏を選任した。アーティストだけでなく、音楽家、建築家など多彩なゲスト30組が国内外11か国から参加し、展覧会タイトルに沿って制作された30作品が揃った。
- 岡山の都市空間を現実と想像が交わる場へと変貌させたいというアーティストック・ディレクターの描く展覧会像により、地元の人々にとっての日常的な空間を多く活用した展覧会となった。映像、音響、AI、生物、体験型など、鑑賞者の想像力を掻き立てる作品が多かった。
- 車両ごとに異なる色のLEDライトで装飾され、街中を通常ダイヤで走る約60台の路線バスや、大学の研究で開発された水の活用、研究室等の協力を得て制作された映像など、地元企業や大学等との連携・協力により作品の展示が実現できた。
- 4回目の展覧会では、今まで以上の来場者呼び込むとともに、屋内外を問わず街全体を展覧会場ととらえ、すべての会場で鑑賞料を無料とした。それにより、今まで来場したことなかったより多くの方が世界最先端の現代アートに気軽に何度でも触れることができる展覧会になり、延べ来場者数は過去最高の424,917人となった。

### 会場

- 表町商店街や西川緑道公園など屋外を中心とした主要な19会場が街中に点在しており、作品と会場を探す楽しさに加え、歩きながら街中に設置されたコインを発見する作品などにより、回遊性や滞在時間の向上につながり、岡山の街の魅力を再認識させる機会となった。
- これまでの開催に続き、岡山城・岡山後楽園周辺エリアを歩いて楽しむことをコンセプトに、旧内山下小学校や岡山県天神山文化プラザを中心として、すべての会場を徒歩で周遊できる展覧会としての評価も得られた。
- 既存の美術館、文化施設等に加え、旧店舗や旧交番などエリア内に立地する様々な歴史文化資源の特性を活かした展示を展開し、美術鑑賞と観光の融合を図った。

### 運営

- 岡山県天神山文化プラザには、展覧会全体のインフォメーションを設け、情報発信の拠点として運営し、岡山市中心部に広がる各会場を有機的につなぐため、各会場に統一デザインによるサインを掲げ、専用のラックへ会場マップを常備することで、どの会場からでも鑑賞ができるような工夫を行い来場者の円滑な回遊を促進した。
- ボランティアとして会場運営をサポートするサポートスタッフは332人の登録があった。前年度から県内の高校や大学、専門学校に向けて個別に案内したほか、ウェブサイトやポスター、チラシ等で募集した。個人の参加だけでなく、企業での参加や、授業の一環として参加した学校もあった。会場運営の実務等に関する研修をオンラインで行うとともに、鑑賞支援の集合研修、現地研修も行い、小・中学校等からの来場に対応した。

### 普及

- 前々年度から、小・中学校への対話型鑑賞出前講座の実施、子どもや普段アートに触れることのない人を対象としたイベントや、街中でのロゴ掲出、国内外へのリリース配信などを行い、岡山芸術交流2025開催の認知度向上と機運醸成を図った。
- 市民・県民が展覧会へ来場するきっかけづくりや展覧会に親しんでもらうための取組として、会期中の鑑賞ツアーなどの各種「パブリックプログラム」を実施した。
- 現代アートに関心が薄い層が岡山芸術交流に関わることを目的として、新たに「アーティストック・トランスレータープログラム」を設け、アーティストが独自の視点でプログラムを企画・実施した。
- 小学生がナビゲーター役となる鑑賞ツアーや、学生グループが作品やゲスト取材し新聞形式にとりまとめるジャーナルプロジェクトの実施、会期中、展覧会と一緒に盛り上げる企画の公募事業などに加え、一般来場者が岡山芸術交流のお勧めや思い出などをハガキに書いて送る新たなイベントも実施した。
- 県内の小・中学校等に対し、開催前年度より広く鑑賞を呼びかけることで、91校(来場児童生徒数約5,800人)が来場した。加えて、小・中学生向けの紹介動画や朝鑑賞プログラムの制作、来場前から来場後まで活用できる子ども向けリーフレット「青豆の公園たんけん迷路」を作成し、子どもたちが現代アートに親しみをもち、様々な視点から楽しく鑑賞できる工夫を行った。
- 学校の対話型鑑賞支援を行う「対話型鑑賞ナビゲーター」を募集し、開催前年度から育成した。育成プログラムを修了した29人が学校対応に当たった。
- 子どもの来場については、平日の学校鑑賞を含め、休日家族連れで来場した子どもたちの数は延べ1万人を超えた。

# I 開催概要

## 開催概要

### 名称

岡山芸術交流2025 (英) Okayama Art Summit 2025

### 本展タイトル

The Parks of Aomame 青豆の公園

### 会期

2025年9月26日(金)～11月24日(月・休) [開館日数 52日]

### 休館日

月曜日(ただし、10月13日(月・祝)・11月3日(月・祝)・11月24日(月・休)開館、10月14日(火)・11月4日(火)休館)

### 開館時間

9:00～17:00(入館は16:30まで。ただし、個別会場における変動あり。)

※旧内山下小学校(作品一部)

10月18日(土)～11月 9日(日) 土日祝のみ、18:00まで展示時間延長(1作品)

11月14日(金)～11月24日(月・休) 20:00まで展示時間延長(2作品)

※岡山市立オリエント美術館(入口前) 9:00-21:00

※表町商店街(雷電館1F) 土日祝のみ、11:00-17:00(入館16:30まで)

※岡山天満屋(表町商店街側ショーウィンドウ) 8:00-19:30

※岡山県立図書館 10:00-18:00

### 展示会場

#### 名称／所在地

旧内山下小学校(校庭・プール)／岡山市北区丸の内1-2-12

岡山県天神山文化プラザ／岡山市北区天神町8-54

岡山市立オリエント美術館(入口前)／岡山市北区天神町9-31

岡山神社／岡山市北区石関町2-33

出石町空き地／岡山市北区出石町1-2-113

岡山県立図書館／岡山市北区丸の内2-6-30

丸の内ハウス／岡山市北区丸の内2-7-5

旧寫真イガラシ／岡山市北区丸の内2-8-5

城下地下広場／岡山市北区丸の内1

岡山シンフォニービル(渡辺栄文堂北側)／岡山市北区表町1-5-1 岡山シンフォニービル1F

表町商店街(表町アルパビル旧館3F)／岡山市北区表町1-10-32 表町アルパビル旧館3F

表町商店街(表町シェルター)／岡山市北区表町1-10-33 山陽ビルB1F

表町商店街(雷電館1F)／岡山市北区表町2-6-64 雷電館1F

表町商店街(第2サカエ町ビル1F)／岡山市北区表町2-7-32 第2サカエ町ビル1F

表町商店街(岡山専門店会館1F)／岡山市北区表町3-5-16 岡山専門店会館1F

岡山天満屋(てんまやアリスの広場)／岡山市北区表町2-1-1

岡山天満屋(表町商店街側ショーウィンドウ)／岡山市北区表町2-1-1

## 開催概要

旧西川橋交番／岡山市北区平和町1-1

西川緑道公園／岡山市北区野田屋町1丁目地内

岡山市内各所

### 参加ゲスト

11か国30組

### 作品数

30作品

### 主催

岡山芸術交流実行委員会

[会長]

大森雅夫(岡山市長)

[総合プロデューサー]

石川康晴(公益財団法人石川文化振興財団理事長)

[総合ディレクター]

那須太郎(TARO NASU代表／ギャラリスト)

[アーティストック・ディレクター]

フィリップ・パレーノ(アーティスト)

[パブリックプログラム・ディレクター]

木ノ下智恵子(大阪大学21世紀懐徳堂准教授)

[アーティストック・トランスレーター]

島袋道浩(アーティスト)

### 特別共催

株式会社メルコグループ

### 特別協賛

イシカワホールディングス株式会社／株式会社山陽新聞社／

株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ／JR西日本グループ

### 協賛

岡山県トヨタ販売店グループ／株式会社サピックス／株式会社トミヤコーポレーション／

ナカシマホールディングス株式会社／日本たばこ産業株式会社／両備グループ／

RSK山陽放送株式会社／岡山放送株式会社／テレビせとうち株式会社／ProdCo

岡山理科大学／丸善雄松堂株式会社

### 助成

公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

Institut Français アンスティチュ・フランセ

### 後援

駐日ブルガリア共和国大使館／在日フランス大使館|アンスティチュ・フランセ／在大阪・神戸インド総領事館／駐日韓国文化院／

在日メキシコ大使館／在日スイス大使館／プリティッシュ・カウンシル／在大阪・神戸米国総領事館／

駐日ベネズエラ・ポリバル共和国大使館

## 開催経緯

2023年 3月30日(木)	令和4年度第2回岡山芸術交流実行委員会総会 2025年 岡山芸術交流開催決定
9月18日(月・祝)	みる!つくる!あそぶ!現代アートの世界 (開催決定記念イベント/イオンモール岡山1F未来スクエア)
10月24日(火)	令和5年度第1回岡山芸術交流実行委員会総会 アーティスティック・ディレクター(フィリップ・パレーノ) 決定
12月21日(木)	公式ウェブサイト総合トップページリニューアル (2022版⇒2025版)
2024年 2月15日(木)	フィリップ・パレーノ 岡山市長表敬訪問
5月16日(木)	令和6年度第1回岡山芸術交流実行委員会総会 基本計画発表
6月11日(火)	フィリップ・パレーノ 岡山視察
9月27日(金) ~29日(日)	六本木アートナイト2024(PRブース出展) 六本木ヒルズ内に国際美術祭「あいち2025」と共同
11月12日(火)	展覧会タイトル発表会 タイトル「The Parks of Aomame 青豆の公園」 ステイトメント、キービジュアル、参加ゲスト発表
12月 1日(日) 2日(月)	開幕300日前記念事業開催 (岡山市役所新庁舎整備工事仮囲い壁画制作・完成筆入れ式)
12月16日(月)	令和6年度第2回岡山芸術交流実行委員会総会 実施計画発表、鑑賞料無料決定
2025年 1月23日(木)	特設ティザーサイト公開
2月18日(火)	晴れの国おかやま観光プレゼンテーション(大阪) 出展
2月20日(木) ~23日(日・祝)	台湾プロモーション(台北、台中、高雄) 実施 (3大都市美術館・旅行会社等セールス・高雄岡山フェア出展)
3月 9日(日)	開幕200日前記念事業開催(飛ぶ人たち)
4月23日(水)	令和7年度第1回岡山芸術交流実行委員会総会
8月 5日(火)	展覧会企画発表会 追加ゲスト、一部作品発表、特設サイト公開、クラウドファンディング開始
9月25日(木)	内覧会(プレスツアー・記者説明会・レセプション)
9月26日(金)	岡山芸術交流2025開幕・オープニングセレモニー
10月15日(水)	延べ来場者10万人突破記念セレモニー
11月 2日(日)	大集合!「青豆の公園」でハガキを書こう!
11月 7日(金)	公開インタビュー ハンス・ウルリッヒ・オプリスト × 詩人・吉増剛造
11月14日(金)	夜のプレミアム鑑賞会実施(開幕までの毎開館日)
11月16日(日)	延べ来場者35万人突破記念セレモニー
11月24日(月・休)	クロージングイベント開催・岡山芸術交流2025閉幕

## 展覧会タイトル・ステイトメント

## 2025本展タイトル

## The Parks of Aomame

## ステイトメント

村上春樹の小説『1Q84』に登場する謎めいたキャラクター「青豆」に触発された「青豆の公園」が岡山市内にて展開される。相互に結びついたこれらの公園は、現実と空想が交わる場として、青豆の静かな葛藤や二つの並行する世界に生きる複雑な存在を映し出すものとなる。

「岡山芸術交流2025」は、岡山の都市空間を現実と想像が自然に交わる場へと変貌させる。この壮大なプロジェクトは、岡山の公共空間、忘れられた場所、市民公園などを再構築し、驚きに満ちた地図を作り上げる。

この芸術交流は単なる視覚芸術の展示にとどまらない。その核には、独自の表現で新しい形を生み出すアーティストや音楽家、建築家、デザイナー、科学者、作家、思想家たちが世界中から集結する「ギルド」が形成される。

シェハラザード・アブデルイラー・パレーノ、マリー・アンジェレツィ、マルティヌ・ダングルジャン＝シャティヨン、アルカ、朝吹真理子、アニルバン・バンディオパダヤイ、ニコラ・ベッカー、ジェームズ・チンランド、メアリー・ヘレナ・クラーク、フリーダ・エスコベド、FABRYX、藤本壮介、シプリアン・ガイヤール、ライアン・ガンダー、リアム・ギリック、ホリー・ハーンドン & マシュー・ドライハースト、石田ゆり子、Isolarii、アレクサンドル・コンジ、ミレ・リー、ハンス・ウルリッヒ・オプリスト、プレジャス・オコヨモン、ヴェレナ・パラヴェル、レイチェル・ローズ、ディミタール・サセロフ、ティノ・セーガル、島袋道浩、サウンドウォーク・コレクティブ、ラムダン・トゥアミ、アンガラッド・ウィリアムズが参加する。

この多様なメンバーは、岡山を有機と合成、生物と人工物、現実と仮想が融合する実験の場に変える。岡山は考察の場となり、ギルドによって市民や来訪者が異なる瞬間や形態に触れる二か月間が始まる。日中だけでなく夜間もまた、特別な出来事が生起する。

「青豆の公園」は、横断歩道がステージに変わり、広場が交流と回想の場へと変容する、屋外展覧会である。日常の行き交いが発見の瞬間に変わり、トリエンナーレは多様な想像の場面を展開するものとなる。この体験の中心となるのが、街中に点在する作品群をつなぐルート、「青豆の道」である。歩を進めるごとに、そこには小さくも儼い驚き待ち受ける。都市を巡る中で架空の物語が芽生え進化していく。ある場所で生まれたアイデアが都市空間を通じて成長し、思想や体験が相互に交わり合うことを促すのである。

岡山は単なる背景ではなく、この実験に参加する存在そのものとなる。

それぞれの作品やパフォーマンスは、岡山の都市空間に物語の層を重ね、並行する現実が都市のもう一つの姿を垣間見せる。物語の交差点では、訪問者が都市内で自身のルートを選びながら旅を進めることができる。都市全体が読み取られ、解釈され、書き換えられるテキストのような存在となる。街頭標識や建物の外壁、公共のアナウンスが架空の要素を反映し、都市の実際の歴史と想像の物語との境界が曖昧になるだろう。



Photo © Ola Rindal

市民や来訪者が集い、岡山の住人たちの夢や思いをこのトリエンナーレの物語に織り成していくことが求められる。芸術イベントと日常生活の境目は薄れ、架空のサービスや時のずれ、異なる歴史を記した銘板や碑などが実際の歴史的な記念物と一体となり、街並みに新たな歴史が刻まれるのである。

皆さんとお会いできるのを楽しみにしている。これは、きっと素晴らしい体験となるだろう。

## 青豆の公園

## Statement

Inspired by Haruki Murakami's enigmatic character, Aomame, from his novel 1Q84, The Parks of Aomame will run through the city of Okayama. These interconnected parks, both real and imagined, will draw upon Aomame's silent struggles and her complex existence within two parallel worlds.

The Okayama Art Summit 2025 will transform the city into a realm in which reality and imagination blend seamlessly. This ambitious event will reimagine Okayama's public spaces, forgotten corners and urban parks, creating a map of wonder.

This forthcoming summit is not simply a visual art exhibition. At the heart of it is a curated Guild of artists, musicians, architects, designers, scientists, writers and thinkers from all over the world — each selected for their unique ability to inspire and provoke new forms.

This diverse Guild includes Schéhérazade Abdelilah Parreno, Marie Angeletti, Martine d'Anglejan-Chatillon, ARCA, Mariko Asabuki, Anirban Bandyopadhyay, Nicolas Becker, James Chinlund, Mary Helena Clark, Frida Escobedo, FABRYX, Sou Fujimoto, Cyprien Gaillard, Ryan Gander, Liam Gillick, Holly Herndon & Mathew Dryhurst, Yuriko Ishida, Isolarii, Alexandre Khondji, Mire Lee, Hans-Ulrich Obrist, Precious Okoyomon, Verena Paravel, Rachel Rose, Dimitar Sasselov, Tino Sehgal, Shimabuku, Soundwalk Collective, Ramdane Touhami, Angharad Williams. Together, this group will transform the city into a laboratory where the organic and synthetic, the biotic and artificial and the real and virtual merge.

Okayama will become a site of speculation where the citizen and visitor will be exposed by the Guild to different moments and forms that will occur for the two-month period of the summit - this time being the time of an exposure. Things will happen by day but also by night.

The Parks of Aomame will be an open-air exhibition in which pedestrian crossings turn into stages, and city squares evolve into spaces for reflection and exchange transforming everyday interactions into moments of discovery. The triennale will open up multiple imaginative scenarios. Central to this experience will be to follow the "Aomame Path", a route connecting the various interventions scattered throughout the city. As you walk this path, you will be exposed to small, ethereal and surprising interventions. You will experience the emergence of a fiction through the city. Ideas sparked in one location will evolve and travel through the urban landscape, encouraging the cross-pollination of thoughts and experiences.

Okayama will become not just a backdrop but a participant in this experiment.

Each intervention and performance will add a layer of narrative to Okayama's urban fabric: parallel realities will offer glimpses into alternative versions of the city, Character-Inhabited Zones will be 'inhabited' by fictional characters, and narrative crossroads will allow visitors to choose their own path through the city.

The city will become a text to be read, interpreted, and rewritten. Street signs, building facades, and public announcements might subtly be altered to reflect fictional elements, blurring the line between the city's actual history and imagined narratives.

Residents and visitors alike will be invited to gather and weave together the dreams and imaginings of Okayama's residents into the Triennale's evolving storyline. The line between art-event and daily life will become blurred through fictional services, time slips in which clocks and calendars operate differently, and alternate histories commemorated by plaques and monuments seamlessly integrate with real historical markers.

We look forward to meeting you there...it is going to be so fun.

アーティスティック・ディレクター Artistic Director  
フィリップ・パレーノ Philippe Parreno

## ロゴマーク

### シンボルマーク



### デザイン:

ピーター・サヴィル Peter Savill

1955年、イギリス・マンチェスター生まれ。イギリスを代表するグラフィックデザイナーで、1970年代から80年代にかけて手がけた、マンチェスターのインディペンデント・レコード・レーベル「ファクトリー・レコーズ」のジャケットのデザイン(特にジョイ・ディヴィジョン、ニュー・オーダーなど)で広く知られる。その活動は音楽関連に止まらず、アドビシステムズ、CNN、ジバンシィなどイギリス国内外の有名企業のデザインも手がける。アーティストとしても活動しており、「岡山芸術交流2016」では、アナ・ブレスマン(Anna Blessmann:1969年ドイツ・ベルリン生まれ)とのアーティストユニットとして、旧後楽館天神校舎会場にて「触れる作品」(Touching Work)を展示、子どもたちを中心に人気の作品となった。

### デザインコンセプト:

オーケー (いいね)、岡山。

オーケー (いいね)、岡山芸術交流。

今や世界の共通言語であるオーケー。いいね、を意味する、その2文字の形と音を「オカヤマ」の英語表記と音に重ねたデザイン。オーケーという記号が表す肯定の姿勢を、岡山と岡山芸術交流に反映させ、目にした人に岡山への興味、岡山芸術交流への賛同を促す。

### 岡山芸術交流2025ロゴマーク

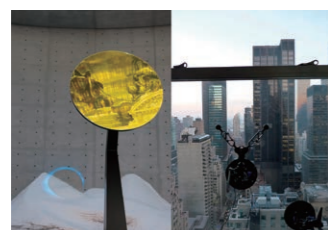
#### 会期なし



#### 会期あり



### キービジュアル



©Okayama Art Summit 2025  
Left: Photo by Andrea Rossetti



©Okayama Art Summit 2025  
Left: Photo by Andrea Rossetti



©Okayama Art Summit 2025  
Right: Photo by Gautier Deblonde



©Okayama Art Summit 2025  
Left: Photo by Andrea Rossetti



©Okayama Art Summit 2025

## 参加ゲスト

アーティストック・ディレクターのフィリップ・パレーノが選定した11か国・30組のゲストが参加した。

1	シェヘラザード・アブデルイラー・パレーノ (フランス)	Schéhérazade Abdelilah Parreno (France)
2	マリー・アンジェレッティ (フランス)	Marie Angeletti (France)
3	マルティーヌ・ダングルジャン=シャティヨン (アメリカ)	Martine d'Anglejan-Chatillon (USA)
4	アルカ (ベネズエラ)	ARCA (Venezuela)
5	朝吹真理子 (日本)	Mariko Asabuki (Japan)
6	アニルバン・バンディオパダヤイ (インド)	Anirban Bandyopadhyay (India)
7	ニコラ・ベッカー (フランス)	Nicolas Becker (France)
8	ジェームズ・チンランド (アメリカ)	James Chinlund (USA)
9	メアリー・ヘレナ・クラーク (アメリカ)	Mary Helena Clark (USA)
10	フリーダ・エスコベド (メキシコ)	Frida Escobedo (Mexico)
11	FABRYX (アメリカ/フランス)	FABRYX (USA / France)
12	藤本壮介 (日本)	Sou Fujimoto (Japan)
13	シプリアン・ガイヤール (フランス)	Cyprien Gaillard (France)
14	ライアン・ガンダー (イギリス)	Ryan Gander (UK)
15	リアム・ギリック (イギリス)	Liam Gillick (UK)
16	ホリー・ハーンダン & マシュー・ドライハースト (アメリカ/イギリス)	Holly Herndon & Mathew Dryhurst (USA/ UK)
17	石田ゆり子 (日本)	Yuriko Ishida (Japan)
18	Isolarii (イギリス)	Isolarii (UK)
19	アレクサンドル・コンジ (フランス)	Alexandre Khondji (France)
20	ミレ・リー (韓国)	Mire Lee (South Korea)
21	ハンス・ウルリッヒ・オブリスト (スイス)	Hans-Ulrich Obrist (Switzerland)
22	プレシャス・オコヨモン (イギリス)	Precious Okoyomon (UK)
23	ヴェレナ・パラヴェル (スイス)	Verena Paravel (Switzerland)
24	レイチェル・ローズ (アメリカ)	Rachel Rose (USA)
25	ディミタル・サセロフ (ブルガリア)	Dimitar Sasselov (Bulgaria)
26	ティノ・セーガル (イギリス)	Tino Sehgal (UK)
27	島袋道浩 (日本)	Shimabuku (Japan)
28	サウンドウォーク・コレクティヴ (フランス)	Soundwalk Collective (France)
29	ラムダン・トゥアミ (フランス)	Ramdane Touhami (France)
30	アンガラッド・ウィリアムズ (ウェールズ)	Angharad Williams (Wales)

岡山芸術交流2025では、多様な分野からの参加者をその専門性によって区別したくないという、アーティストック・ディレクターのポリシーにより、今回の岡山芸術交流に参加いただくすべての人々を“ゲスト”と呼称している。

## アーティストック・ディレクター・参加ゲストの来岡

作品制作のための展示会場及びその周辺地のリサーチ、作品展示等やレセプションなどへの出席のため、アーティストック・ディレクター及び21組の参加ゲストが来岡した。

アーティストック・ディレクター、参加ゲスト	リサーチ等	オープニング前後/会期中
フィリップ・パレーノ (アーティストック・ディレクター)	2024年2月15日(木) 2024年6月11日(火)～6月12日(水) 5月 1日(木)～5月 3日(土)	9月17日(水)～ 9月27日(土)
マリー・アンジェレッティ	3月 2日(日)～3月 4日(火)	
マルティヌ・ダングルジャン＝シャティヨン	2024年6月11日(火)～6月12日(水)	9月15日(月)～ 9月26日(金)
朝吹真理子		9月24日(水)～ 9月27日(土) 11月 7日(金)～11月13日(木)
アシルバン・バンディオバダヤイ		9月23日(火)～ 9月26日(金)
ニコラ・ベッカー	8月 5日(火)～8月 9日(土)	9月22日(月)～ 9月26日(金)
ジェームズ・チンランド	2024年8月 4日(日)～8月 5日(月)	
メアリー・ヘレナ・クラーク	3月19日(水)～3月21日(金)	9月22日(月)～ 9月26日(金)
フリーダ・エスコバド		9月24日(水)～ 9月26日(金)
藤本壮介		9月25日(木)～ 9月26日(金)
シブリアン・ガイヤール	5月31日(土)～6月 2日(月)	9月22日(月)～ 9月26日(金)
ライアン・ガンダー		9月23日(火)～ 9月26日(金)
ホリー・ハーンダン & マシュー・ドライハースト		9月21日(日)～ 9月27日(土)
Isolarii	3月28日(金)～3月30日(日)	9月21日(日)～ 9月26日(金)
アレクサンドル・コンジ	5月25日(日)～5月29日(木)	9月18日(木)～ 9月26日(金)
ミレ・リー	1月20日(月)～1月21日(火)	
ハンス・ウルリッヒ・オブリスト		11月 7日(金)～11月 8日(土)
ヴェレナ・バラヴェル	8月21日(木)～8月31日(日)	9月20日(土)～ 9月26日(金)
ティノ・セーガル		9月18日(木)～ 9月27日(土)
島袋道浩	4月30日(水)～5月 3日(土)	9月 7日(日)～ 9月 9日(火) 9月16日(火)～ 9月17日(水) 9月21日(日)～ 9月30日(火)
サウンドウォーク・コレクティヴ	3月29日(土)～3月30日(日)	9月18日(木)～ 9月26日(金)
アンガラッド・ウィリアムズ		9月21日(日)～ 9月26日(金)

## Ⅱ 展覧会



フィリップ・パレーノ(左)、島袋道浩(右)



メアリー・ヘレナ・クラーク(中央)



ジェームズ・チンランド(中央)



Isolarii(左)



ニコラ・ベッカー(右)



サウンドウォーク・コレクティヴ



シブリアン・ガイヤール(左)



朝吹真理子(右)

# 展示会場

開催会場は、岡山城周辺の文化施設が集積するゾーンを中心に、来場者が徒歩や自転車ですべての会場を回ることができるコンパクトなエリアで構成された。



## 旧内山下小学校 (校庭、プール) Former Uchisange Elementary School (school yard, pool)



旧内山下小学校は、1887年5月、市内小橋町の国清寺内に創立され、1890年8月に岡山城西の丸跡地に移転し、2001年3月の閉校まで同地にあった。現在残る校舎は1933年、1934年に南棟が竣工し、その後1937年に東棟、北棟と渡り廊下が増設され、全館が竣工した。市内最古の鉄筋コンクリート造建築の校舎で、比較的簡素な造形の中に当時流行りの様式の反映も見られ、文化的視点から見ても、貴重な建築物である。

# A 旧内山下小学校 (校庭・プール)

岡山市北区丸の内1-2-12  
開館時間 / 9:00-17:00 (入館16:30まで)  
10月18日(土)~11月9日(日)土日祝のみ18:00まで(A1のみ)  
11月14日(金)~11月24日(月・休)20:00まで(A1、A6のみ)  
※詳細P88参照

フィリップ・パレーノ 石田ゆり子  
Philippe Parreno Yuriko Ishida

A1 メンブレン  
Membrane

## FABRYX

A2 SILYX (シリックス)  
SILYX

藤本壮介 島袋道浩  
Sou Fujimoto Shimabuku

A3 オープンサークル  
Open Circle

A5 魔法の水  
MAGIC WATER

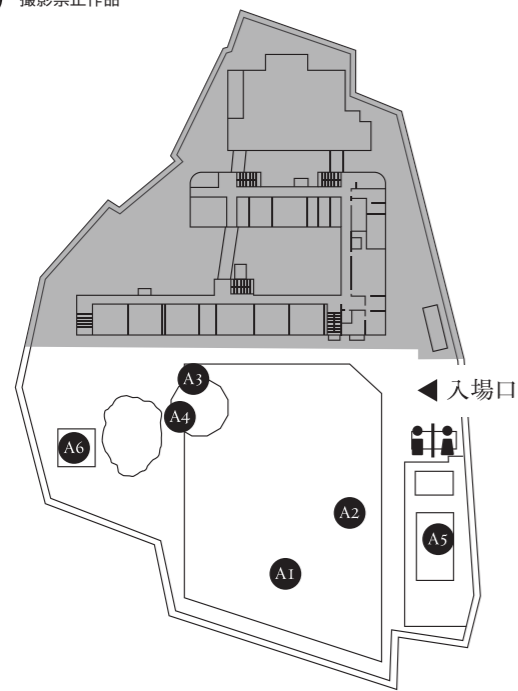
ティノ・セーガル  
Tino Sehgal

サウンドウォーク・コレクティヴ  
Soundwalk Collective

A4 この出来事  
This Entry

A6 レナンスエーション・オブ・タイム  
Renunciation Of Time

撮影禁止作品



### フィリップ・パレーノ

1964年、フランス生まれ。現在はパリにて制作活動。映画、ドローイング、テキストなど、さまざまなメディアにわたる作品で高い評価を得ている。パレーノは展覧会を媒体として捉え、その構築をプロセスの中心に置くことで、展示体験を根本的に再定義することを試みてきた。個々の作品の集合体としてではなく、一貫した「もの」としての展覧会の可能性を模索し続けている。国内では個展「この場所、あの空」がポーラ美術館(箱根)にて開催。その他の近年の主な展覧会に2025年「Haus Der Kunst」(ミュンヘン)、2024年「VOICES」リウム美術館(ソウル)、2023年「Marilyn」エスパス・ルイ・ヴィトン(ミュンヘン)、2022年「Echo2: a Carte Blanche to Philippe Parreno」Rotunda of the Bourse de Commerce、ピノー・コジョン(パリ)、「La Quinta del Sordo」ブラド美術館(マドリッド)、2019-2020年「A Manifestation of Objects」ワタリウム美術館(東京)、2017年「Synchronicity」ロックバンド美術館(上海)、2016年「Anywhen,Hyundai Commission 2016」タービンホール、テート・モダン(ロンドン)2015年「H(N)Y P(N)Y OSIS」パーク・アヴェニュー アーモリー(ニューヨーク)、2014年「The Illusion Of Light」フランソワ・ピノー財団(パリのラッツイオ・グラッシ(ベネチア))、2013年「Anywhere, Anywhere Out Of The World」パレ・ド・トーキョー(パリ)2012年「Philippe Parreno」バイエラ財団(バーゼル)他。ヨーロッパをはじめ、アメリカ、日本、韓国を含むアジアなど各国の主要美術館、ギャラリーにて展覧会歴多数。また、岡山では、2014年「歴史まちづくり回遊社会実験」の一環として開催された現代アート展「Imagineering OKAYAMA ART PROJECT」や、岡山芸術交流2016にアーティストとして参加。

展示作品 撮影:市川靖史

## 展示作品



フィリップ・パレーノ 石田ゆり子

A1 メンブレン



FABRYX

A2 SILYX (シリックス)

### FABRYX

FABRYXは、アマゾンのシャーマンが植物と対話するように、鉱物と対話することを使命とする分散型鉱物芸術ギルドである。そのメンバーには、アーティスト、エンジニア、デザイナー、キュレーター、ミュージシャン、科学者、弁護士、そしてさまざまな伝統的直系継承者が含まれる。その製品は、古代の建築と現代のコンピューティングという巨石文化的かつ微細な芸術の知識を組み合わせ、創造的な洞察力を刺激することで癒しを与える。ギルド・ロッジは、フランス・パリから西へ1時間の田舎、レ・ロゾーの元銅精錬所にある。ここでは、メンバーたちがレジデンシーやリトリート・プログラムに参加し、鉱物の領域と視点を融合させるための新設なプロトコルである「ミネラル・ディエタ」を開発している。このプログラムは、AIを使ったバイオフィードバックの特注フローティング・タンク\*\*「アルゴ」での長時間のセッションによって活性化される、儀式化されたデトックスと再石灰化で構成されている。「ミネラル・ディエタ」で生成されたデータは、ユーザーが変性意識状態や夢体験に取り組むことを可能にする消費者向け製品に力を与える基礎AIモデルを訓練するために使用される。ギルドの成果の大半はオープンソースであり、フランスで3歳から12歳の子どもたちが通う実験的な学校をサポートしている。また、そのプロトコルや製品から派生した展覧会も企画している。

\*バイオフィードバック:生体自己制御ともいわれる。心拍のような人間の制御できない現象を、画像や音など人間が感覚できる形に変換し、対象者の意識の下に置かせ、フィードバックする技術のこと。\*\*フローティング・タンク:外部の音や光が遮られ、温水が流れる、人が横たわって浮かぶような装置のこと。感覚遮断タンクともいわれる。

### 石田ゆり子

1988年NHKドラマ『海の群星』で俳優デビュー。以降、ドラマ・映画・執筆・音楽活動など、多岐にわたる活躍。映画『もののけ姫』(1997年)でサンノの声を担当、『平成理合戦ぼんぼこ』(1994年)、『コクリコ坂から』(2011年)などのジブリ作品にも出演。近年の主な出演作は、TBS『さよならマエストロ〜父と私のアパッチオナーター』(2024年)、NHK連続テレビ小説『虎に翼』(2024年)など。劇場版『TOKYO MER〜走る緊急救命室〜CAPITAL CRISIS』が2026年夏公開予定。

## 展示作品



藤本壮介

A3 オープンサークル



島袋道浩

A5 魔法の水

### 藤本壮介

1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞(ラルブル・プラン)に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに就任。2024年には「(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託」の基本設計者に特定。主な作品に、ブダペストのHouse of Music (2021年)、マルホンまきあーヒテラス 石巻市複合文化施設(2021年)、白井屋ホテル(2020年)、L'Arbre Blanc(2019年)、ロンドンのサーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013(2013年)、House NA(2011年)、武蔵野美術大学 美術館・図書館(2010年)、House N(2008年)等がある。

### 島袋道浩

島袋は、沖縄県那覇市に在住し、国際的に活躍する日本人コンセプチュアル・アーティストである。1990年代初頭より、国内外を問わず様々な場所を旅し、また彼の作品は、サイトスペシフィックで、その場所で暮らす人々の場所、生活、文化に関わっている。新たなコミュニケーション形態に関連したパフォーマンス、映像、彫刻、インスタレーション作品などで知られる。彼の作品は時に生き物と人間の関係性にも及ぶ。詩情とユーモアに溢れ、随機的な方法で観る者を挑発する作風は、国際的に高い評価を得ている。主要な国際展に、第57回ヴェネチア・ビエンナーレ(2017年)、第14回リヨン・ビエンナーレ(2017年)、第12回ハバナ・ビエンナーレ(2015年)、第9回台北ビエンナーレ(2014年)、第11回ジャルジャ・ビエンナーレ(2013年)、第27回サンパウロ・ビエンナーレ(2006年)、リパブル・ビエンナーレ(2006年)、第11回シドニー・ビエンナーレ(1998年)など。最近の主な個展に、セントロ・ボティン(サンタンデル、2024年)、ムゼイオン:ポルツァーノ現代美術館(ポルツァーノ、2023年)、ヴィーナス現代美術センター(ブリュッセル、2022年)、モナコ国立美術館(モナコ、2021年)、Crédac-イヴリー現代美術センター(イヴリー=シュル=セヌ、2018年)、クンストハレ・ベルリン(ベルリン、2014年)、Icon Gallery(ハーミンガム、2013年)など。島袋は岡山芸術交流2025の「アーティストック・トランスレーター」を務める。



ティノ・セーガル

A4 この出来事



サウンドウォーク・コレクティヴ

A6 レナンスエーション・オブ・タイム

### ティノ・セーガル

同世代で最も重要なアーティストの一人として広く評価されている。セーガルに対する批評家たちの称賛は、「構築された状況」という形をとる彼の先鋭的な芸術的実践に由来する。その優い美しさは、刹那的な出会いの特異性にあり、プレイヤーはしばしば作品の構成に積極的に参加することで、来場者を魅了する。フィリップ・パレーノとは長い共同制作の歴史がある。ドイツのエッセンにあるフォルクヴァング芸術大学でベルリンの政治経済とダンスを学ぶ。彼の作品は国際的に数多くの個展やグループ展で展示されており、特にバイエラ財団(バーゼル、2024年)、Desert X AlUla(サウジアラビア、2024年)、Centro Botin(サンタンデル、2023年)、Remai Modern(サスカトゥーン、2022年)、小田原芸術文化振興財団(小田原、2019年)、Officine Grandi Riparazioni(トリノ、2018年)、V-A-C財団(モスクワ、2017年)、バイエラ財団(バーゼル、2017年)、Jemaa el-Fna(マラケシュ、2016年)、パレ・ド・トーキョー(パリ、2016年)、ステドラク美術館(アムステルダム、2015年)、マルティン・グロピウス・バウ(ベルリン、2015年)、ピナコチカ・CCBB(サンパウロ、オデジャネイロ、2014年)、ウレンス現代美術センター(北京、2013年)、テート・モダン(ロンドン、2012年)、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館(ニューヨーク、2010年)、クンストハウス・ブレゲンツ(ブレゲンツ、2006年)など。

### サウンドウォーク・コレクティヴ

サウンドウォーク・コレクティヴは、創設者・アーティストのステファン・クラスニアンスキーとプロデューサーのシモーネ・メルリによるコンテンポラリー・ソニク・アーツ・プラットフォーム。アーティストやミュージシャンを交えながら、コンセプチュアルで文学的または芸術的なテーマを検証するために、その場所や状況に特化したサウンド・プロジェクトを展開している。サウンドウォーク・コレクティヴは、ミュージシャンのバティ・スミス、映画監督のジャン=リュック・ゴダール、写真家のナン・ゴールディン、振付師のサシャ・ヴァルツ、女優歌手のシャルロット・グンズブルらと長期的なコラボレーションを展開。彼らの活動は、アート・インスタレーション、ダンス、音楽、映画などのメディアを横断して、音の物語的な可能性に開かれている。最新のオリジナル音楽担当作品『美と殺戮のすべて』(監督:ローラ・ポイトラス)は、2022年ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞。2024年には、アテネのオナシス財団、ニューヨークのBAM、メジジンのMAMM現代美術館で、バティ・スミスの新作展示とパフォーマンス「Correspondences」を発表した。サウンドウォーク・コレクティヴは、BAM、CCBリスボン、ボンビドゥー・センター、CTMフェスティバル、ドクメンタ、KWインスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート、ルーヴル・アブダビ、マニフェスタ、ザハ・ハジドによるモビル・アート・パビリオン、ニュー・ミュージアム、リットハウス、TPMMトリス、フォルクスビューネ・ベルリンなど、数多くの芸術・音楽施設やイベントでパフォーマンスや展示を行っている。

# B

## 岡山県天神山文化プラザ Tenjinyama Cultural Plaza of Okayama Prefecture



図書館を核とした「岡山県総合文化センター」として、1962年6月に開館した。建物の設計は、モダニズム建築の巨匠・前川國男氏によるもので、屋上庭園、ピロティ、吹き抜けレリーフなど、当時のモダンなデザイン手法が随所に見られる。図書館部門が移転した後、2005年に、岡山県民の身近な芸術文化活動と文化情報発信の拠点施設としてリニューアルオープンした。

### B 岡山県天神山文化プラザ

岡山市北区天神町8-54  
開館時間 / 9:00-17:00 (入館16:30まで)

アニルバン・バンディオパダヤイ  
Anirban Bandyopadhyay

**B1** SOMU (自律的数学宇宙)  
SOMU (Self-Operating Mathematical Universe)

ホリー・ハーンドン & マシュー・ドライハースト  
Holly Herndon & Mathew Dryhurst

**B2** スターミラー / パブリック・ディフュージョン  
Starmirror / Public Diffusion

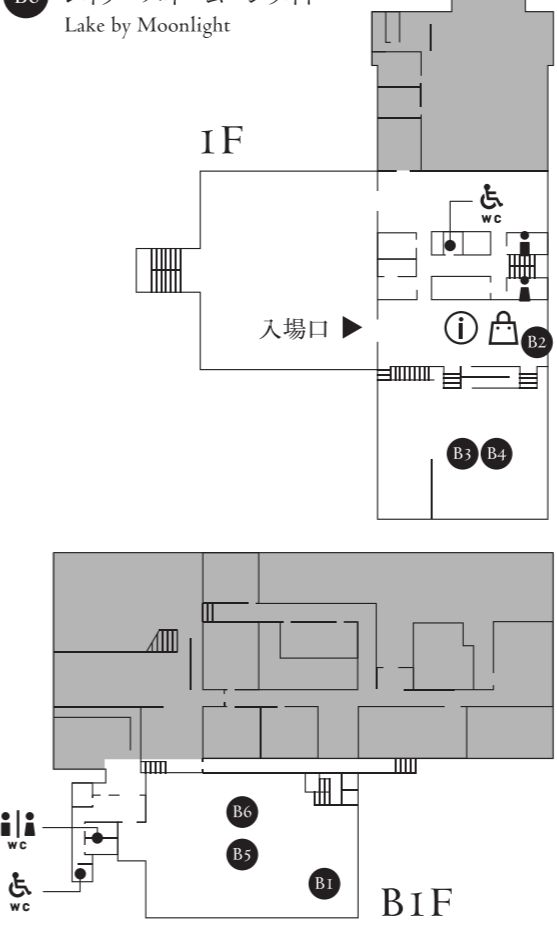
ヴェレナ・パラヴェル  
Verena Paravel

**B3** コスモフォニアへのプレリュード：岡山チャプター  
Prelude to Cosmofonia: Okayama Chapter

レイチェル・ローズ  
Rachel Rose

**B4** エンクロージャー **B5** ザ・エンチャントド・ハンターズ  
Enclosure The Enchanted Hunters

**B6** レイク・バイ・ムーンライト  
Lake by Moonlight



アニルバン・バンディオパダヤイ  
アニルバン・バンディオパダヤイは、つくば市にある国立研究開発法人物質・材料研究機構 (NIMS) の主幹研究員。2004-5年、コルカタのインド科学育成協会 (IACS) で超分子エレクトロニクスとマルチレベルスイッチングの研究に従事し、博士号を取得。バンディオパダヤイは、画期的な共鳴鎖ベースの完全ヒト脳モデルを開発し、共鳴鎖のギャップを埋めることが鍵となる代替ヒト脳地図を開発した。彼のグループは、未来型ロボットのために、自ら学習し、プログラムし、問題を解決する有機脳ゼリーや、自ら複雑なコードを書くソフトウェア・シミュレーターを設計・合成してきた。著書に『Nanobrain: The Making of an Artificial Brain from a Time Crystal』(2020年)。

### 展示作品



アニルバン・バンディオパダヤイ  
**B1** SOMU (自律的数学宇宙)



ホリー・ハーンドン & マシュー・ドライハースト  
**B2** スターミラー / パブリック・ディフュージョン

ホリー・ハーンドン & マシュー・ドライハースト  
ホリー・ハーンドンとマシュー・ドライハーストは、機械学習、ソフトウェア、音楽の分野で先駆的な活動を行うアーティストとして広く知られている。彼らは自らのテクノロジーや他者のテクノロジーと共存するシステムを開発し、デジタルアイデンティティと声の所有権および拡張に重点を置くことが多い。これらの技術的プロトコルは、メディアを超えて広範な作品を実現するだけでなく、それ自体が一種の芸術作品として提案されている。2024年には、サーベントイン・ギャラリーで開催「The Call」を開催し、ポジットニー・ピエンナーレにも参加した。彼らはまた、パブリックドメインAIモデルとデータインフラを構築する組織「Spawning」を共同設立した。批評家から高く評価されている彼らの音楽作品は、4ADおよびRVNG Intl.からリリースされている。ホリー・ハーndonはスタンフォード大学CCRMAでコンピュータ音楽の博士号を取得しており、マシュー・ドライハーストはほぼ独学で学んできた。彼らはNYU、ヨーロッパ大学院、バーグルー・エン・インスティテュートのアンティキティラ・プログラムで教員職を務めてきたほか、2022年にはデジタルアートのためのArs Electronica STARTS賞を受賞し、2024年にはオーストリア初のデジタル人権賞を受賞している。ホリー・ハーndonは、ベルリン・アーティストック・リサーチ・プログラム(2024/25)のフェローを務める。

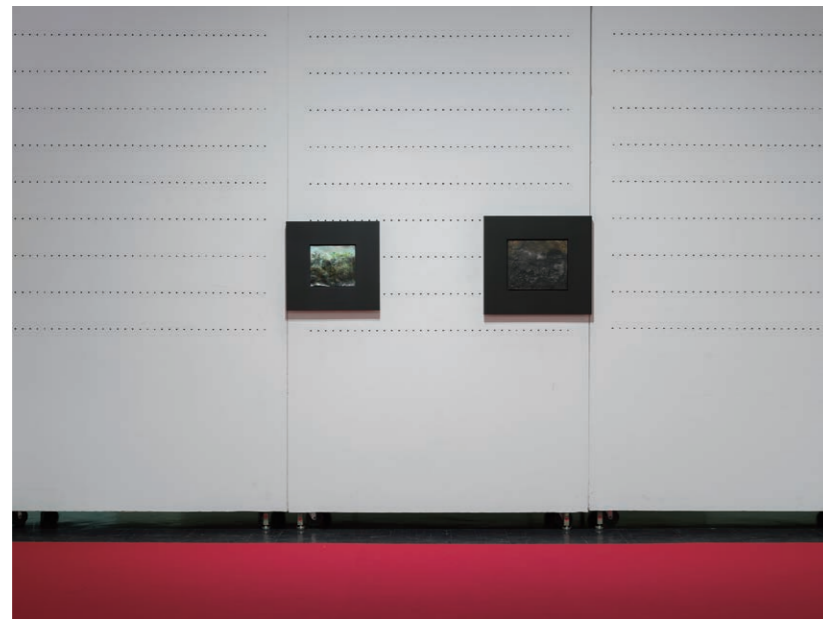
展示作品



ヴェレナ・パラヴェル  
 B3 コスモフォニアへのプレリュード：岡山チャプター



レイチェル・ローズ  
 B4 エンクロージャー



レイチェル・ローズ  
 左：B5 ザ・エンチャンテッド・ハンターズ  
 右：B6 レイク・バイ・ムーンライト

ヴェレナ・パラヴェル  
 ヴェレナ・パラヴェルは、映画作家、アーティスト、視覚人類学者。作品は、芸術がもつ「ネガティブ・ケイパビリティ（否定的能力）」と、人生の流動性への民族誌的なまなざし、そして現代における緊急の生態的・政治的課題への関与とを結びつけている。2006年以降、ハーバード大学のSensory Ethnography Labにて、Lucien Castaing-Taylorと共同制作を行い、現代美術と人類学的リサーチの境界を再構築する独自のドキュメンタリー映画手法を発展させてきた。主な作品に、『Foreign Parts』（消滅の瀬戸際にあるニューヨークのジャンクヤードのポートレート）、『Leviathan』（2012、人類と海洋資源採取を描く身体的映像体験）、『Somniloquies』（2013、世界でもっとも多弁な夢遊病者の夢の録音から構成された映像エッセイ）、『Ah Humanity!』（2015、福島と人類の脆弱性をテーマとした映像）、『Caniba』（2017、人間のカニバリズムをめぐる観想的映像）、『De Humani Corporis Fabrica』（2023、解剖学的・医療的・政治的的身体を融合させた前例のないポートレート）などがある。彼女の映画はベルリン、カンヌ、ロカルノ、トロント、ヴェネツィアなどの国際映画祭で上映されており、ニューヨーク近代美術館（MoMA）のパーマネント永久コレクションにも収蔵されている。また、ヴェネツィア・ビエンナーレ、ドクメンタ14、ポンピドゥー・センター、テート、ホイットニー美術館、バービカン、クンストハレ・ベルリン、MoMA PS1 などでも紹介された。ハーバード大学の客員教授、パリ政治学院（Sciences Po Paris）政治芸術学部の教員を務めるほか、2023-24年にはル・フレノワ国立現代アートスタジオのレジデンス・アーティストとしても活動した。

レイチェル・ローズ  
 レイチェル・ローズはニューヨークを拠点に活動。彼女の作品は、風景と私たちの関係の変化が、どのように物語や信念体系を形作ってきたかを探索している。ローズの映画は、映画革新の長い歴史から学び、またそれに貢献するものである。低温物理学、アメリカ独立戦争、宇宙飛行士の宇宙遊泳など、どのような探究であれ、彼女は、崇高さと日常が曖昧になるような場所や歴史に私たちの注意を向ける。彼女はこれを絵画、彫刻、ドローイングに反映させ、互いに物質的に反響させながら、目先の時間から百万年単位の膨大な時の流れまで、異なる時間層をつなぎ合わせる試みを行なっている。個展に、GL STRAND（2023年）、SITE Santa Fe（2023年）、Gladstone Gallery（2023年）、CC Strombeek（2022年）、Pond Society（上海、2020年）、Lafayette Anticipations（2020年）、Fridericianum（2019年）、LUMA Foundation（2019年）、Philadelphia Museum of Art（2018年）、Fondazione Sandretto Re Rebaudengo（2018年）、Kunsthau Bregenz（2017年）、Museu Serralves, Porto（2016年）、The Aspen Art Museum, Aspen（2016年）、The Whitney Museum of American Art（2015年）、Serpentine Gallery（2015年）、Castello di Rivoli（2015年）など。



岡山市立オリエント美術館（入口前）  
 Okayama Orient Museum (Pre-Entrance)



岡山神社  
 Okayama Shrine



出石町空き地  
 Izushicho Vacant Lot



岡山市立オリエント美術館（入口前）



岡山神社



出石町空き地

## C 岡山市立オリエント美術館 (入口前)

岡山市北区天神町9-31  
鑑賞時間 / 9:00-21:00

リアム・ギリック

Liam Gillick

アブカル・ポータル  
Apkallu Portal

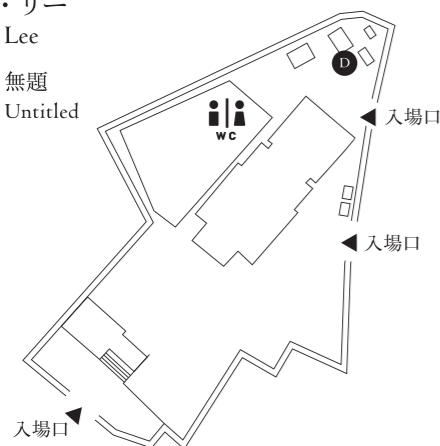
## D 岡山神社

岡山市北区石関町2-33  
開館時間 / 9:00-17:00

ミレ・リー

Miree Lee

無題  
Untitled



## E 出石町空き地

岡山市北区出石町1-2-113

フリーダ・エスコベド

Frida Escobedo

SOL (太陽)  
SOL

リアム・ギリック

1964年アイスバーリー生まれ、現在、ニューヨークにて制作、活動。リアム・ギリックは、ニューヨークを拠点に、インスタレーション、ビデオ、サウンドなど多様な形式で作品を制作している。アーティストとしてだけでなく、理論家、キュレーター、教育者としても活躍し、エッセイやテキストの出版、講演、キュレーション、共同プロジェクトなど、幅広い活動を行う。ギリックの作品は、経済、労働、社会組織の美学を含む、産業革命後の様相における生産条件を反映している。その作品は、グローバル化した新自由主義的総意の中で、抽象と建築としてのモダニズムの遺産が機能不全に陥っていることを暴き、形式としての展覧会の構造的再考にまで及ぶものである。2000年代後半からは、文化人としての現代アーティストが永続的に変容していくことを踏まえ、『Margin Time』(2012年)、『The Heavenly Lagoon』(2013年)、『Hamilton: A Film by Liam Gillick』(2014年)など創造的な人物像の構築に取り組む短編映画を多数制作している。著書には、2016年3月にコロンビア大学出版局から出版された『Industry and Intelligence: Contemporary Art Since 1820』がある。ドクメンタ、ヴェネツィアやベルリン・上海・イスタンブールのビエンナーレなど、数々の重要な展覧会に作品を出展。2009年にはドイツ代表としてヴェネツィア・ビエンナーレに参加した。主な個展に、シカゴ現代美術館、ニューヨーク近代美術館、ロンドンのテートなどがある。ギリックの作品は、パリのボンビドゥー・センター、ニューヨークとビルバオのグッゲンハイム美術館、ニューヨーク近代美術館など、多くの重要なパブリック・コレクションに収蔵されている。この25年間、ギリックは現代美術分野で著述家・批評家としても活躍している。『Artforum』、『October』、『Frieze』、『e-flux Journal』などに寄稿し、批評選集を含め、多数の書籍を上梓してきた。ほかに、ロンドンの英国政府内務省庁舎や、フランクフルトのルフトハンザドイツ航空本社などの公共空間における作品も注目を集めている。同時にギリックは、自身の活躍の場を広げ、フィリップ・パレーノ、ローレンス・ウィナー、ルイス・ローラー、アダム・ペンドルトンといったアーティストたちとの協働、マンチェスターとトリノ、ウィーンでロックバンドのニュー・オーダーとの共同コンサート開催など、実験的な場所での活動や共同プロジェクトにも力を注いでいる。

ミレ・リー

ミレ・リーは、みずぼらしく、滑稽で、不安定に見えるキネティック彫刻インスタレーションを制作することで知られるアーティストである。リーの作品は、自分らしさ、社会的受容性、清潔さといった概念に挑戦しており、オーガズミック、逸脱的かつキネティックなテクノロジーを前に、美学や欲望に関する社会の慣習を消し去っている。最近の個展に『Black Sun』New Museum(ニューヨーク、2023年)、『Carriers』Tina Kim Gallery(ニューヨーク、2022年)、『Look, I'm a fountain of filth raving mad with love』ZOLLAMT MMK(フランクフルト、2022年)、『Carriers Art Sonje Center』(ソウル、2020年)など。また、2024年10月にテート・モダンで幕を開けた『Turbine Hall Commission 2024』のアーティストにも選出された。

### 展示作品



リアム・ギリック

アブカル・ポータル



ミレ・リー

無題



フリーダ・エスコベド

SOL (太陽)

フリーダ・エスコベド

フリーダ・エスコベドは2006年にメキシコシティに自身の名を冠した建築事務所を設立。母国で一連のコパ受賞プロジェクトを強みに築かれたこの事務所は、2018年、ロンドンのケンジントン・ガーデンズで毎年開催されるサーベント・パビリオンの設計という名義ある指名を受けて以来、その評判が世界的な広がりを見せている。建築物や実験的な保存プロジェクトから、一時的なインスタレーションや公共彫刻、オブジェ、出版物、展覧会のデザインに至るまで、エスコベドは多岐にわたるスケールや表現手段で活動し、伝統的な分野の境界線を越えている。2021年、ニューヨークのメトロポリタン美術館の新しい近現代アートウィングを設計する建築家に任命され、同美術館の建物を設計した最年少かつ初の女性建築家となった。また、エスコベドの事務所は、ボンビドゥー・センター2030年の改修を率いるモロークスノキ建築設計のアソシエイト・デザイナーに選ばれている。エスコベドは建築家として数々の榮譽に浴しており、実務に加え、アメリカ名門大学の大学院で教職も執っている。

# F

## 岡山県立図書館

Okayama Prefectural Library

# G

## 丸の内ハウス

Marunouchi House

# H

## 旧写真イガラシ

Former Igarashi Photostudio



岡山県立図書館



丸の内ハウス



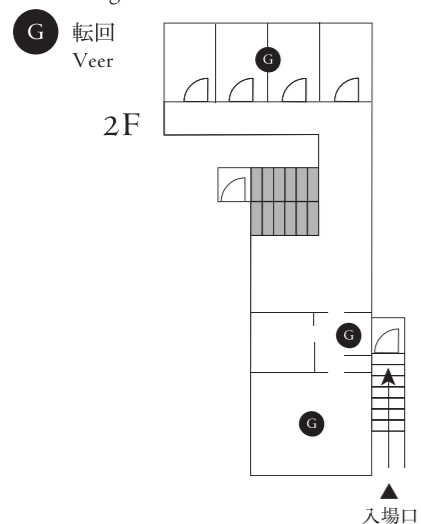
旧写真イガラシ

**F** 岡山県立図書館  
岡山市北区丸の内2-6-30  
開館時間 / 10:00-18:00

Isolarii  
**F** 脱創造  
Decreation

**G** 丸の内ハウス  
岡山市北区丸の内2-7-5  
開館時間 / 9:00-17:00 (入館16:30まで)

マリー・アンジェレッティ  
Marie Angeletti



**H** 旧写真イガラシ  
岡山市北区丸の内2-8-5  
開館時間 / 9:00-17:00 (入館16:30まで)

メアリー・ヘレナ・クラーク  
Mary Helena Clark  
**H** クレパー・ハンス  
Clever Hans

Isolariiはニューヨークとロンドンを拠点とするメディア企業である。設立以来、文学における従来の常識—その美学や流通、目的など—を打破する試みにおいて評価されている。Isolariiの書籍は、今日最も急進的な組織や人物の図式を提示している。出版物の著者に残雪やスロースティック・ムカソング、ロバート・クワヴァ、アート・スピーゲルマン、エドゥアルド・グリッサンなどがいる。2020年後半以降、同社は環境イニシアティブ(『Salmon: a Red Herring』)の触媒となったり、ヨーロッパ全土でフェミニスト抗議のシンボルとなったもの(『F-Letter』)を配布したり、キウウから国際的に同時配給されたルポルタージュ(『War Diary』)を制作した。岡山芸術交流2025では、Isolariiはシモーヌ・ヴェイユが1933年から1943年に亡くなるまで綴った全ノートを初めて編集した『Decreation』を刊行する。

マリー・アンジェレッティは、彫刻、映像、写真、ドローイング、インスタレーションなど多様なメディアを横断しながら、日々の経験に潜む偶然や予期せぬ出来事に対応する自由闊達な制作を行っている。彼女の作品は空間、時間、動き、そして人間の身体を生々しく扱いながら遊びを生み出す。アンジェレッティのプロジェクトは、最終的に確定された完成形に落ち着くことを拒む傾向があり、ときに展示を重ねるなかで変化し続ける。作品はその制作過程の軌跡を受け入れ、そうすることで生と死のありように寄り添っている。

展示作品



Isolarii  
**F** 脱創造



マリー・アンジェレッティ  
**G** 転回



メアリー・ヘレナ・クラーク  
**H** クレパー・ハンス

メアリー・ヘレナ・クラークは、映像、サウンド、彫刻、写真を駆使して活動するアーティスト。実験映画を背景に持つ彼女の作品は、モンタージュとエッセイ形式を頻りに組み合わせ、人間と動物、人工物と自然、センスとナンセンスの間で作上げられた差異に疑問を投げかける。近年の展覧会に、『Conveyor』Bridget Donahue (ニューヨーク、2023年)、『Neighboring Animals』Cushion Works (サンフランシスコ、2023年)、『A Green Shade』MIT List Visual Arts Center (ケンブリッジ、2019年)、『Unboxing: Doublespeak』Museum of Contemporary Art Detroit (デトロイト、2019年)、『A Casual Pincer』AWHRHWAR (ロサンゼルス、2019年)、『Audible Bacillus』Ezra and Cecile Zilkha Gallery (ウエズリアン大学、ミドルタウン、2019年) など。彼女の作品は、サンダンス映画祭、ロッテルダム国際映画祭、ニューヨーク映画祭、トロント国際映画祭、香港国際映画祭、シネマ・ドゥ・リール、2017年ホットニュー・ビエンナーレなどで上映されている。

城下地下広場  
Shiroshita Underground Plaza



城下地下広場



岡山シンフォニービル

岡山シンフォニービル  
Okayama Symphony Bldg



表町商店街 (表町アルパビル旧館3F)



表町商店街 (表町シェルター)

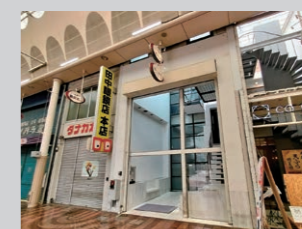
表町商店街 (K1~K5)  
Omote-cho shopping Street



表町商店街 (雷電館1F)



表町商店街 (第2サカエ町ビル1F)



表町商店街 (岡山専門店会館1F)

岡山天満屋 (L1~L2)  
Okayama Tenmaya



岡山天満屋

# I 城下地下広場

岡山市北区丸の内1

ライアン・ガンダー  
Ryan Gander

I-1 The Find (発見)  
The Find

ホリー・ハーндン & マシュー・ドライハースト  
Holly Herndon & Mathew Dryhurst

I-2 スターミラー / パブリック・ディフュージョン  
Starmirror / Public Diffusion

# J 岡山シンフォニービル (渡辺栄文堂北側)

岡山市北区表町1-5-1 岡山シンフォニービル1F  
開館時間 / 9:00-17:00

ラムダン・トゥアミ  
Ramdane Touhami

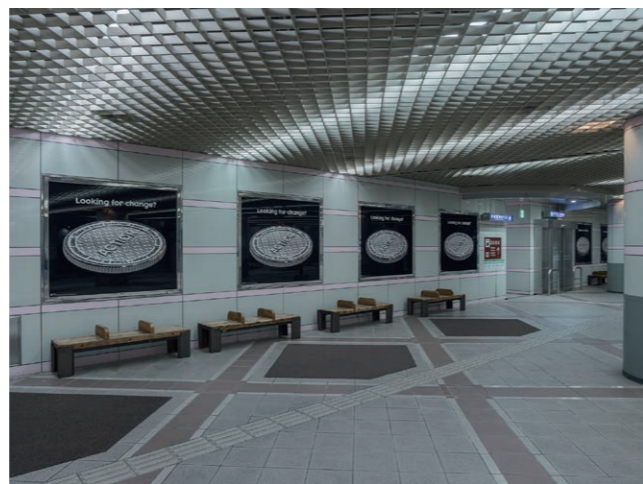
J オカヤマ・トリエンナーレ・ラジオ  
Okayama Triennale Radio



ホリー・ハーндン & マシュー・ドライハースト

I-2 スターミラー / パブリック・ディフュージョン

## 展示作品



ライアン・ガンダー

I-1 The Find (発見)



ラムダン・トゥアミ

J オカヤマ・トリエンナーレ・ラジオ

### ライアン・ガンダー

チェスター生まれ。現在はロンドンおよびサフォークを拠点に制作活動。2022年ロイヤル・アカデミーの正会員(彫刻部門)に選出。2019年アーモリー・ショーにてボメリー賞、2017年大英帝国勲章、2009年チュリッヒ芸術賞受賞。新世代のコンセプチュアルアートの実践者であるライアン・ガンダーはその多彩な作風で知られている。身の回りにある日用品にヒントを得た作品や、言語からインスピレーションを得たもの、文化の差異を主題とするものなど、ガンダーがとりあげるテーマは多岐にわたるが、そこには常に新しい知覚や認識を聞くポータルとしてのアートのエネルギーとその可能性の提示がコンセプトとして存在する。ガンダーは「岡山芸術交流2016 開発」にて「墜落した隕石」状の作品を展示し、アートファンのみならず市民の注目も集めた。主な展覧会に、「ライアン・ガンダー: ユー・コンプリート・ミー」ポーラ美術館(神奈川、2025年)、「Together, but not the same」福岡油油ギャラリー(岡山、2025年)、「Grunts, hoots, whimpers, barks and screams」ヘルガ・デ・アルヴェアール現代美術館(カセレス、2024年)、「ライアン・ガンダー われらの時代のサイン」東京オペラシティアートギャラリー(東京、2022年)、「The 500 Million Year Collaboration」クンストハレ・ベルン(ベルン、2019年)、「ライアン・ガンダー—この翼は飛ぶためのものではない」国立国際美術館(大阪、2017年)など。第10回リパブル・ビエンナーレ(2018年)、第12回ハバナ・ビエンナーレ(2015年)、第9回上海ビエンナーレ(2012年)、ドクメンタ13(カッセル、2012年)、第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2011年)など国際展への参加も多数。

### ラムダン・トゥアミ

人間の体験をデザインする者  
ラムダン・トゥアミは、パリを拠点とするフランス系モロッコ人のデザイナー、クリエイティブ起業家。空間、文化、人間の相互作用が交差する領域を横断しながら活動を展開している。単なるブランド構築を超え、美学、物語、空間設計が融合するエコシステムを創出する。2000年代初頭には、フランス初期のギャラリー兼コンセプトストアのひとつ「L'Épicerie」を設立。その後、世界最古のキャンドルメーカー Cire Trudonを再生させ、さらに Officine Universelle Bulyを共同設立。歴史的遺産を、没入型で多感覚的な空間として再構築する手法を確立した。自身が主宰するエージェンシー Art Recherche et Industrie では、すべてのプロジェクトを社内完結。オブジェ、インテリア、映像、タイポグラフィ、パッケージ、ツールなどを学際的なチームと共に設計・制作している。商業と文化、販売行為と文化的儀式的境界を溶かし、感情に訴えと同時に視覚的にも洗練された空間を生み出すことに注力する。レオナルド・ヴェルネとの共作により、ギャラリー兼出版レーベル「Permanent」を設立。新進アーティストや実験的なフォーマットを支援するプラットフォームとして機能している。2023年にはスイス・アルプスに Hotel Drei Berge を開業。2024-2025年には、販売、ホスピタリティ、出版、プロダクトデザインといった複数の領域にまたがり、自然との新たな関係性を再構築するプロジェクトを展開予定。また、音を空間体験として探求するプロジェクトとして、音声プラットフォーム「Pseudo Radio」とその24時間ライブストリーム「Music for Hikers」を展開。アルプスの孤独感と高揚感を音として可視化している。店舗、香り、音といった異なる形式を通じて、ラムダン・トゥアミの仕事は、出会い、移動、意味の生成といった人間の基本的な行為に対して、常に再構築を試みている。

# K 表町商店街

## K-I 表町商店街(表町アルパビル旧館3F)

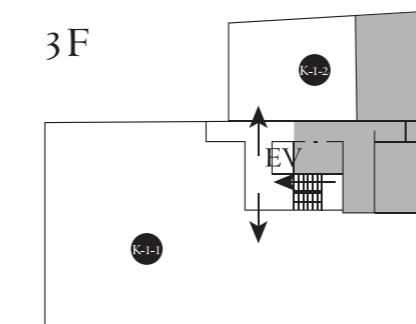
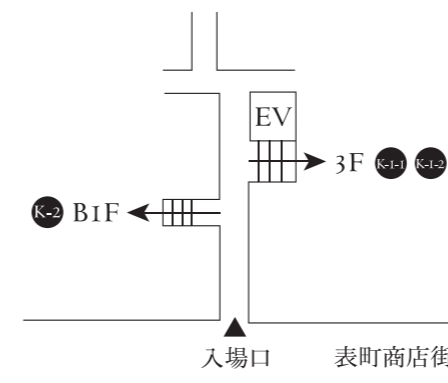
岡山市北区表町1-10-32 表町アルパビル 旧館3F  
開館時間 / 9:00-17:00 (入館16:30まで)

アルカ  
ARCA

K-I-1 トランスフィクション  
Transfixion

ディミタール・サセロフ  
Dimitar Sasselov

K-I-2 エキゾプラネット・アルピナリウム  
Exoplanet Alpinarium



## 展示作品



アルカ

K-I-1 トランスフィクション



ディミタール・サセロフ

K-I-2 エキゾプラネット・アルピナリウム

### アルカ

アルカの手による超越的かつ逸脱的な作品群は、アーティストとアートの間、人間とテクノロジーの間、アヴァンギャルドとポップの間、そして音楽からビジュアル・アート、ファッションに至るまで、長年越えられぬと思われていた障壁を崩壊させ、彼女の消えない足跡を残した。2021年のKICKシリーズは、アルカのキャリアに新たな局面をもたらした。実験的な逸脱者のアイコンから、本格的な世界的文化現象、ラテンアメリカ音楽の先駆者へと昇華させた。それ以来、アルカは2つのラテン・グラミー賞と1つのグラミー賞にノミネートされている。ジャン・ポール・ゴルドン、ロイ・エ、アクネ・ストゥディオス、ディオール、プロエンザ・スクーラー、リー・ボック、ビレド、バイレード、ポッテガ・ヴェネタ、ミュグラーなどのレーベルと協働し、作曲も手がけている。レディー・ガガ、ビバリー・グレン、コーブランド、ローリー・アンダーソンの楽曲のリミックスを手がけ、バルセロナとパリでビヨンセのルネッサンス・ワールド・ツアー、バルセロナでマドンナのライブ、そして最近ではニューヨークでLadyLandフェスに登場した。2023年秋、パーク・アヴェニュー・アーモリーでのレジデンシー公演「Mutant; Destrudo」、2024年3月、Bourse de Commerce (パリ)におけるパフォーマンス作品「The Light Comes in the Name of the Voice」に続き、故郷ベネズエラのカラカスで初のヘッドライン・ショーを行い、その後ベネズエラの友人やDJたちとボイラー・ルームのライブ・セットで注目を集めた。2019年、アルカはブロンズを探求し始め、革新的なAIソフトウェアを使用し、フィリップ・パレーノとニコラ・ベッカーと共同作業してMoMAの新ロビーのためのオートボイエティック(自己創制)な作品を制作した。

### ディミタール・サセロフ

ディミタール・サセロフはハーバード大学で星と惑星について研究を行う天文学教授であり、ハーバード大学「生命起源イニシアチブ」プログラムの創設ディレクターでもある。彼の研究は、初期宇宙における宇宙マイクロ波背景の出現から、地球における生命の起源に関する光化学の実験室実験まで、光と物質の相互作用の様式を探求している。20年以上前、サセロフが率いるチームは、後にNASAのケプラーとTESSミッションの共同研究員として、地球のような惑星を見つけるための新しい技術を駆使して、他の恒星を周回する惑星をいくつか発見した。彼の著書『The Life of Super-Earths』(Basic Books, 2012年)は、他の惑星の生命の新たな探索について述べている。1988年、ディミタール・サセロフはソフィア大学(ブルガリア)で物理学の博士号を取得し、1990年にはトロント大学で天文学の博士号を取得した。1999年、アルフレッド・P・スローン・フェローとなる。数々の賞—NASA業績賞2つ、名誉博士号(ソフィア大学)、オックスフォード大学アスター・レクチャーシップなどを授与され、DLIやTED、ダボス会議などで講演を行っている。物理学と生命科学を横断する学際的な研究活動であるハーバード大学「生命起源イニシアチブ」プログラムの創設ディレクターであると同時に、サイモンズ財団「生命起源共同研究計画」の創設共同ディレクターでもあり、2023年には国際的な「Origins Federation」の創設に貢献し、現在はその理事長を務めている。ハーバード大学ラドクリフ高等研究所のシニア・サイエンス・アドバイザー、世界経済フォーラムの宇宙安全保障に関するグローバル・アジェンダ・カウンシルのメンバーも兼任。

## K-2 表町商店街 (表町シェルター)

岡山市北区表町1-10-33 山陽ビルB1F  
開館時間 / 9:00-17:00 (入館16:30まで)

アンガラッド・ウィリアムズ  
Angharad Williams

**K-2** 今、この一撃を見よ  
Now Watch This Drive

## K-3 表町商店街 (雷電館1F)

岡山市北区表町2-6-64 雷電館1F  
開館時間 / 平日 9:00-17:00 (入館16:30まで)  
土日祝 11:00-17:00 (入館16:30まで)

プレシヤス・オコヨモン  
Precious Okoyomon

**K-3** 実存探偵社 (岡山)  
The Existential Detective Agency (Okayama)

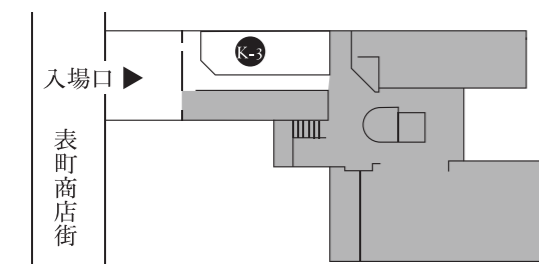
### 展示作品



アンガラッド・ウィリアムズ  
**K-2** 今、この一撃を見よ



プレシヤス・オコヨモン  
**K-3** 実存探偵社 (岡山)



### アンガラッド・ウィリアムズ

アンガラッド・ウィリアムズ (ウェールズ・モーン島生まれ) の作品は、私たちの生活や環境を支配する力学についての内省と批判的な考察を促す。ペインティング、ドローイング、ライティング、彫刻、写真、インスタレーション、映像、パフォーマンスなど、彼女の多面的なアート活動は、内に秘められた、われわれの最も潜在的な欲望や恐怖を投影するスクリーンやフィルターとして機能する形態に目を向けている。これらの時に曖昧な表現は、文章に根ざし、権威や安全、あるいはデザインの問題によって形作られ、個人、コミュニティ、そして彼らの住む風景の主体化の中心となっている。ウィリアムズの作品や展示は、この過程を欲望の集積としてとらえ、それはあらゆる種類のバラックや監禁状態からの脱出の道であると同時に、人類の不安定な性質、生来の野性、その包括的な暴力性と官能性に対する率直な観察でもある。主な個展に「Berlin Straße」Schiefe Zähne (ベルリン、2024年)、「Eraser」Kunstverein Düsseldorf (デュッセルドルフ、2022年)、「Picture the Others」MOSTYN (ウェールズ・スランディッドノー、2022年)、「High Horse」Kevin Space (ウィーン、2021年) など。グループ展に、museo Madre (ナポリ、2024年)、The Wig (ベルリン、2023年)、MadeIn Gallery (上海、2023年)、Kunstverein Munich (ミュンヘン、2020年) など。また、チューリッヒ美術館 (チューリッヒ、2022年)、KW (ベルリン、2020年) でもパフォーマンスが行われた。2023年、アンガラッド・ウィリアムズの作品集『Eraser』がAfter8 Books (パリ) から出版された。2025年には、ロンドンのコンセントリック・グループとテッサウのバウハウス財団とともに限定版12インチレコードがリリースされる。

### プレシヤス・オコヨモン

プレシヤス・オコヨモンはナイジェリア系アメリカ人の詩人であり、アーティストである。その作品において、オコヨモンは自然界、移民と人種差別の歴史、日常生活の純粋な喜びについて考察している。LUMA Westbau (チューリッヒ)、フランクフルト現代美術館 (フランクフルト)、パフォーマンス・スペース・ニューヨーク (ニューヨーク)、アスペン美術館 (アスペン)、The Sandretto Re Rebaudengo Madrid Foundation (マドリッド) で個展を開催。パルティック・トリエンナーレ13 (タリン、エストニア)、第58回ベオグラード・ビエンナーレ (ベオグラード、セルビア)、第59回ヴェネツィア・ビエンナーレ (ヴェネツィア)、岡山芸術交流2022、第11回シークエンス・ビエンナーレ (レイキャビク) 等の国際芸術展に参加した他、インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アーツ (ロンドン)、LUMA Westbau (チューリッヒ、スイス)、Schinkel Pavillon (ベルリン、ドイツ)、LUMA Arles (アルル、フランス)、パレ・ド・トーキョー (パリ)、第60回ヴェネツィア・ビエンナーレ ナイジェリア・パビリオン (ヴェネツィア)、バイエラ財団 (バーゼル) などでのグループ展に参加している。またオコヨモンの作品は、フランクフルト現代美術館 (フランクフルト) と LUMA Arles (アルル) のパーマネントコレクションに収蔵されている。2021年フリーズ・アートフェア・アーティスト賞、2021年シャネル・ネクスト・アート賞受賞。2024年には2冊目の詩集『But Did You Die?』がSerpentineおよびWonder Pressから共同出版された。

## K-4 表町商店街 (第2サカエ町ビル1F)

岡山市北区表町2-7-32 第2サカエ町ビル1F  
開館時間 / 9:00-17:00 (入館16:30まで)

アレクサンドル・コンジ  
Alexandre Khondji

**K-4** 無題 (Go)  
Untitled (Go)

## K-5 表町商店街 (岡山専門店会館1F)

岡山市北区表町3-5-16 岡山専門店会館 1F  
開館時間 / 9:00-17:00 (入館16:30まで)

ハンス・ウルリッヒ・オブリスト  
Hans-Ulrich Obrist

**K-5** 終わりなき対話  
Infinite Conversations  
公開インタビュー  
ハンス・ウルリッヒ・オブリスト × 詩人・吉増剛造  
※詳細P87参照

### 展示作品



アレクサンドル・コンジ  
**K-4** 無題 (Go)

### アレクサンドル・コンジ

アレクサンドル・コンジは、フランス・パリを拠点に活動するコンセプチュアル・アーティスト。ニューヨークのバード大学で修士号、ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートで修士号を取得。主な展覧会に、「Air de Repos (Breathwork)」CAPCポルドー現代美術館 (ポルドー、2024年)、「Maureen Paley (ロンドン、2024年)」、「Shivers Only (パリ、2023年)」、LUMA (アルル、2021年) など。なお、Sweetwater (ベルリン、2025年) で個展が予定されている。

### ハンス・ウルリッヒ・オブリスト

ロンドンのサー・ベンタインのアーティストティック・ディレクター、LUMAアルルのシニア・アドバイザーを務める。1991年の初展「ワールド・スプ (キッチン・ショー)」以来、350以上の展覧会をキュレーション。なかでも代表的なものに、「Do It」シリーズ (1993年〜)、「Take Me (I'm Yours)」(ロンドン、1995年;パリ、2015年;ニューヨーク、2016年;ミラノ、2017年)、第14回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展のスイス館 (2014年) などがある。オブリストはまた、「Cities on the Move」シリーズ (1996年-2000年)、「Laboratorium」(1999年)、そのオペラグループ展「Il Tempo del Postino」(マンチェスター、2007年;バーゼル、2009年)、「The 11, 12, 13, 14, 15 Rooms」シリーズ (2011-2015) の共同キュレーションも手がけた。最近の主な展覧会に、ミラノ・トリエンナーレでのエンツォ・マリ展 (2020年)、ボンビドゥー・センター・メスでの「WORLDBUILDING」(2023年)、コリア・シトウ・シェック・コレクション展 (デュッセルドルフ、2022年) などがある。2011年にはCCSパド賞キュレーター部門、2015年には国際フォルクヴァング賞を受賞。最近では、アメリカ鑑定家協会より2018年度優秀芸術賞を受賞した。オブリストは、学術機関や美術機関で国際的に講義を行い、複数の雑誌やジャーナルの寄稿編集者でもある。近著に『Ways of Curating』(2015年、邦訳:『キュレーションの方法:オブリストは語る』)、『The Extreme Self: Age of You』(2021年)、『140 Artists' Ideas for Planet Earth』(2021年)、『Edouard Glissant: Archipelago』(2021年)、『James Lovelock: Ever Gaia』(2023年)、『Remember to Dream!』(2023年)、『Une vie in progress』(2023年) など。



ハンス・ウルリッヒ・オブリスト  
**K-5** 終わりなき対話  
公開インタビュー ハンス・ウルリッヒ・オブリスト × 詩人・吉増剛造  
※詳細P87参照

# L 岡山天満屋

岡山市北区表町2-1-1

## L-1 岡山天満屋 (てんまやアリスの広場)

ホリー・ハーンダン & マシュー・ドライハースト  
Holly Herndon & Mathew Dryhurst

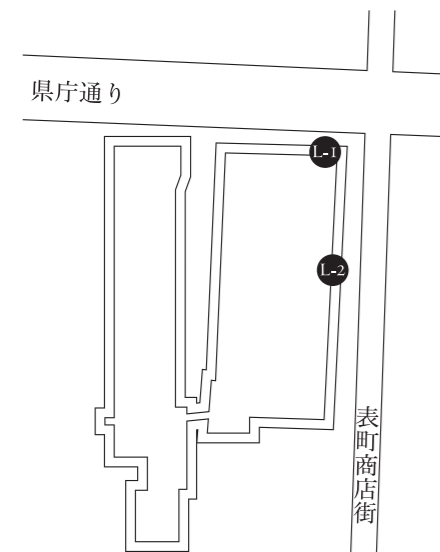
L-1 スターミラー / パブリック・ディフュージョン  
Starmirror / Public Diffusion

## L-2 岡山天満屋 (表町商店街側ショーウィンドウ)

鑑賞時間 / 8:00-19:30

ライアン・ガンダー  
Ryan Gander

L-2 The Find (発見)  
The Find



### 展示作品



ホリー・ハーンダン & マシュー・ドライハースト  
L-1 スターミラー / パブリック・ディフュージョン



ライアン・ガンダー  
L-2 The Find (発見)

# M

## 旧西川橋交番

Former Nishigawa Bridge Police Box

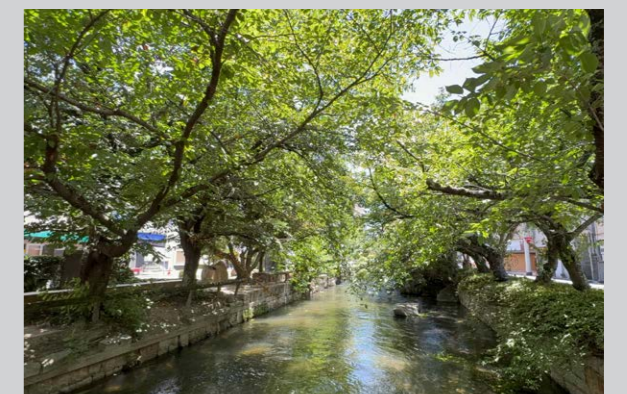
# N

## 西川緑道公園

Nishigawa Ryokudo Park



旧西川橋交番



西川緑道公園

# M 旧西川橋交番

岡山市北区平和町1-1  
開館時間 / 9:00-17:00  
(入館16:30まで)

## 展示作品

シプリアン・ガイヤール  
Cyprien Gaillard

**M** 木々が名を持たぬ場所  
Where Trees Have No Names



シプリアン・ガイヤール

**M** 木々が名を持たぬ場所

# N 西川緑道公園

岡山市北区野田屋町1丁目地内  
鑑賞時間 / 9:00-17:00

ニコラ・ベッカー  
Nicolas Becker

**N** カカシ  
Kakashi



ニコラ・ベッカー

**N** カカシ

### シプリアン・ガイヤール

ベルリンとパリを拠点に活動するアーティスト。主な個展に、Palais de Tokyo & Lafayette Anticipations (パリ、2022年)、Fondation LUMA (アルル、2022年)、森美術館(東京、2021年)、TANK Shanghai (上海、2019年)、Accelerator Konsthall(ストックホルム、2019年)、ティンダリー美術館(バーゼル、2019年)、ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館K20(デュッセルドルフ、2016年)、ユリア・ストジック・コレクション(デュッセルドルフ、2015年)、MoMA PS1(ニューヨーク、2013年)、ハマー美術館(ロサンゼルス、2013年)、ニコラ・トラサルディ財団(ミラノ、2012年)、シングル・パヴィヨン(ベルリン、2012年)、ボンビドゥー・センター(パリ、2011年)、クンストヴェルク現代美術センター(ベルリン、2011年)、クンストハーレ・バーゼル(バーゼル、2010年)。主なグループ展に、バイエラー財団(スイス、2024年)、カルミニャック財団(ボルネオ、2022年)、ヘルシキ現代美術館(ヘルシンキ、2022年)、パレ・ド・トーキョー(パリ、2021年)、ユリア・ストジック・コレクション(ベルリン、2021年)、GAMEC(ベルガモ、2021年)、ハンブルガー・バーンホフ(ベルリン、2020年)など、第58回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2019年)、フィンセント・ファン・ゴッホ財団(アルル、2019年)、クリーブランド・トリエンナーレ(2018年)、グロピウス・バウ(ベルリン、2018年)、レイ・グティン財団(パリ、2018年)、ARoSトリエンナーレ(オーフス、2017年)、紅磚美術館(北京、2017年)、ハーシュホーン美術館・彫刻庭園(ワシントンD.C.、2017)、ハイワード・ギャラリー(ロンドン、2016年)、第13回リヨン・ビエンナーレ(2015年)、第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2011年)、光州ビエンナーレ(2010年)、第5回ベルリン・ビエンナーレ(2008年)。

### ニコラ・ベッカー

ニコラ・ベッカーは映画音響の世界で、サウンドエンジニア、デザイナー、フォーリーアーティスト、作曲家として多方面で活躍している。アルフォンソ・キュアロン監督の『ゼロ・グラビティ』(2013年)、アレックス・ガーランド監督の『エクス・マキナ』(2014年)、ドゥニ・ヴィルヌーヴ監督の『メッセージ』(2016年)、アレハンドロ・イニャリトゥ監督の『バード、偽りの記録と一握りの真実』(2022年)などの受賞作を手助け、世界の映画界で高い人気を誇っている。ベッカーはダリウス・マラー監督の『サウンド・オブ・メタル ～聞こえるということ～』(2019年)でアカデミー賞音響賞を受賞した。彼は音の熱心なコレクターであり、作品制作のための豊富な貯蔵庫ともなる膨大な音の素材ライブラリを蓄積している。サウンドデザインへのアプローチにおいて、ベッカーはユニークな音の構造を作り上げ、その手法は現代アートの領域と密接な接点を持つものである。



岡山市内各所  
Other locations in Okayama



その他  
Other

# 〇 岡山市内各所

シェヘラザード・アブデルイラー・パレーノ  
Schéhérazade Abdelilah Parreno

〇1 PLEASE (プリーズ)  
PLEASE

ジェームズ・チンランド  
James Chinlund

〇2 レインボーバスライン  
Rainbow Bus Lines

ライアン・ガンダー  
Ryan Gander

〇3 The Find (発見)  
The Find

ホリー・ハーンドン & マシュー・ドライハースト  
Holly Herndon & Mathew Dryhurst

〇4 スターミラー / パブリック・ディフュージョン  
Starmirror / Public Diffusion

Isolarii

〇5 脱創造  
Decreation

ラムダン・トゥアミ  
Ramdane Touhami

〇6 オカヤマ・トリエンナーレ・ラジオ  
Okayama Triennale Radio

シェヘラザード・アブデルイラー・パレーノ

シェヘラザード・アブデルイラー・パレーノはパリを拠点とするアートディレクター、クリエイティブ・コンサルタント、応用美術を学び、2004年に有名なESAG Penninghenを卒業後、ロサンゼルス市の映画スタジオでビジュアル・コミュニケーション分野でキャリアをスタート。その後、上海とバーレーンで働き、パリに戻る。ファッションとラグジュアリーの交差点で20年間を過ごし、2次元と3次元のデザインを行き来しながら、両分野のクリエイティブ・マスタースにアドバイスし、パターン認識、空間記憶、プロポーション、プロジェクトを描くことに独自の才能を開花させた。公共空間、インテリアデザイン、ファッションから離れたアブデルイラーは、人間の経験とその環境に対するより深い理解に惹かれ、人間の究極の織物である皮膚の領域を探求し始めた。2018年、彼女は空間として見る人間の結合組織の効果について探求し出した。新しいテクノロジーとそれが生物に与える影響に情熱を注ぐ彼女は、NASAや顔面再建の第一人者などが使用するマイクロカレントの有益な特性に注目した。ロンドンとパリでの厳しい修業期間を経て、パリ中心部にモモ・スキン・スタジオを設立。このスタジオは、心の安らぎと顔という景観の表皮と心理的なつながりに焦点を当てた先駆的な存在である。パレーノは、ファッションやアートの世界で最も有名な人々とコラボレーションし、インスピレーションを与え続けている。

ジェームズ・チンランド

ジェームズ・チンランドは、長編映画やテレビの世界観構築で知られる、アメリカのプロダクション・デザイナーで、数々の賞を受賞してきた。『ザ・バットマン』(2022年)、『ライオン・キング』(2019年)、『狼の惑星:新世紀』(2014年)、『レイクエム・フォー・ドリーム』(2000年)などで知られる。また、ルイ・ヴィトン、シャネル、ナイキ、アップルなどのビデオ、印刷広告、ファッションショーのデザインも手がけている。現在、『ザ・バットマン2』やベニー・サフティ、フィリップ・パレーノ監督の長編映画を製作中。

## 展示作品



シェヘラザード・アブデルイラー・パレーノ

〇1 PLEASE (プリーズ)



ジェームズ・チンランド

〇2 レインボーバスライン

## 展示作品



ライアン・ガンダー

〇3 The Find (発見)



ホリー・ハーンドン & マシュー・ドライハースト

〇4 スターミラー / パブリック・ディフュージョン



Isolarii

〇5 脱創造

# Z その他

マルティーン・ダングルジャン=シャティヨン  
Martine d'Anglejan-Chatillon

Z 岡山芸術交流 2025 キュレーター  
Curator, Okayama Art Summit 2025

朝吹真理子  
Mariko Asabuki

Z 岡山芸術交流 2025 公式カタログ  
※会期終了後販売予定  
Author, Official Catalogue,  
Okayama Art Summit 2025  
\*Scheduled for sale after the exhibition ends

マルティーン・ダングルジャン=シャティヨン

マルティーン・ダングルジャン=シャティヨンは、ロンドンを拠点に、アート、映画、ファッション、テクノロジーの交差点で活躍するクリエイティブ・プロデューサー。社会実験映画大作『DAU』、ラスベガス・スフィアのこけら落としとなったU2の公演、ルイ・ヴィトンの大規模なファッションショーなど、カルチャー界で最も野心的かつ先鋭的なプロジェクトに携わってきた。2004年にはロンドンのThomas Dane Galleryの設立パートナーとして、フィルム、ビデオ、デジタルシミュレーションを専門に扱う。フィリップ・パレーノによって岡山芸術交流2025のキュレーターに任命され、現在はパレーノの長編映画の製作も行っている。2021年にMDAC Productionsを設立し、国際的に有名なアーティストをアートの隣接業界へ進出させる。ダングルジャン=シャティヨンは、サマセット・ハウス(ロンドン)と、AI時代における芸術機関の役割、意味、機能に関する研究を支援する財団「Art Institutions of the 21st Century (AI21C)」の理事を務めている。

朝吹真理子

小説家。2009年『流跡』でデビュー。2010年、同作で第20回Bunkamuraドゥマゴ文学賞を最年少受賞。2011年『きことわ』で第144回芥川賞を受賞。2012-2014年にかけて国東半島アートプロジェクトツアー 船屋法水×朝吹真理子『いりくちでくち』を発表。2022年「Reborn-Art Festival 2021-22」で画家弓指寛治と展示作品「スウィミング・タウン」を制作。



ラムダン・トゥアミ

〇6 オカヤマ・トリエンナーレ・ラジオ